

式 辞

厳しい寒さが続いた冬も、もうすぐ終わりを告げようとしています。ここ甲山にも春の息吹を感じられる今日のおき日、PTA会長鈴木陽子様をはじめ 多くのご来賓の皆様、並びに多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに兵庫県立西宮甲山高等学校 第三十五回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に大きな喜びであります。高いところからではありますが御礼申し上げます。

そして、これまで、長きにわたって慈しみ育てられました保護者の皆様、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。立派に成長されたお子様の姿に、感激もひとしおかと拝察いたします。

ただ今、卒業証書を授与いたしました第三十五回生 百九十一名の皆さん、卒業おめでとうございます。

私は、三十五回生の皆さんが入学されたのと同時に本校に着任いたしました。いわば同級生のようなものではないでしょうか。以来、三年間の付き合いでしたが、オリエンテーション合宿、定期戦、甲フェス、体育大会、修学旅行などでの皆さんの奮闘ぶりから、たくさんの感動をいただきました。今、皆さんの脳裏には、甲高での三年間の生活が走馬燈のようによみがえっていることではないでしょうか。友達と、先生と過ごした学校生活、行事、部活動など、楽しいこともたくさんあったと思いますが、友達のこと、学習のこと、いろいろと思い悩んだことも多かったのではないかと、思います。それらを克服し、見事、本日ここに卒業の日を迎えることができました。本当によく頑張りました。ただ、この日を迎えることができたのは、家族、友人、先生方その他多くの人々の暖かい励ましや、支えがあったことへの感謝を忘れてはなりません。その方々は皆さんにとっては宝物ですから、これからも大切に絆をつないでほしいと思います。

さて、皆さんが生きていく社会とは、どのような社会で、皆さんに何を求め、期待しているのでしょうか。高度情報化、グローバル化は今後もとてつもないスピードで進み、人工知能を始め、私たちの想像を遙かに超えることがどんどん現実になっています。一方自然災害は、地震や台風でも想像を遙かに超える被害が発生しています。そんな状況では、皆さんが身につけた知識や技能、過去の経験が役に立たないかもしれません。どのような場面でも、皆さんには、しっかり考える力、判断する力は勿論のこと、自分の考えを周囲に伝える力、他人の考えを聞く力、すなわちコミュニケーション能力をベースに、周囲の人たちと力を合わせて困難な事態の打開に向かう力も求められています。大学、専門学校に進学する人も、就職する人も、単に知識・技能を身につけるだけでなく、自ら考える力、判断する力、伝える力、チームで取り組む態度を身につけるため、主体的に、深く学びや仕事に挑戦し、己を極めて欲しいと思います。

また、社会がどのように変わろうとも、時を超えて変わらないものもたくさんあります。どんな時代でも、人の命は何よりも重いこと。そのためには、自由、平等で平和な社会を創らなければならないこと。人が人として成長すること。そのためには、人の命と権利を大切にし、人と人がつながり、絆をもつこと。そして人が人を愛する、人が人に愛されることのなんと素晴らしいこと。これらは、いつの時代でも私たちが大切にしなければならないことと考えます。どこにいても、何をしても、いくつになっても、忘れずにいてほしいと思います。

これからそんな厳しい社会に船出をする皆さんに、私から少しばかりの願いをします。皆さんは自分の人生で「勇気を持って」生きてほしいと思っています。

ひとつは、自分の弱さを認める勇気です。ほとんどの人には欠点や短所があるでしょう。自分の足りないところを認めるのはつらいことですが、それを認めようとしなければ、本当の自分を隠したり、背伸びをして、虚勢を張り、無理して振る舞ったりするかもしれません。人の目や評価を気にして、失敗を必要以上に恐れるようになるかもしれません。そのうち、うそをつく自分が嫌になり、自分を愛せなくなるかもしれません。自分の弱さを認めることは、周りの人の意見に素直に耳を傾けることであり、自分に正直に、素直になることでもあります。自分の弱さを知り、そこを変えようとして努力する、そんな人が本当は一番強い人ではないでしょうか。もちろん、他人の心の弱さや悲しみもわかり、やさしくできるでしょう。

もうひとつは、挑戦する勇気です。自分の弱さを改善したいとき、何かを始めたいとき、何かをしなければ

ばならないとき、何かを変えたいとき、逆境を打開したいとき、はじめの一步を踏み出す勇気を持ってほしいということです。それがなければ、何も始まらず、何も変わりません。それは、挑戦し、失敗したときに、恥をかくことや、自分の心が傷つくことを恐れない勇気でもあります。そんな怖さが先に立ち一步を踏み出せなければ、後になって、挑戦しなかったことを、勇気がなかったことを後悔することになるかもしれません。悔いのない人生を創るためにも勇気を、一步を踏み出す勇気を持ってください。できるかできないかではありません、やるかやらないかです。

以上二つのことは、実は本校校訓の基そのものであります。「己を極め」は、「挑戦する勇気を持つこと」、「ふれあいのなかに」は、「弱さを認める勇気を持つこと」、ぜひ、この二つを大切に「明日を拓いて」いただければと願います。

さて、三十五回生の皆さんは、本校の教育方針に則り、あるべき甲高生の姿を体現してくれたと私は思っています。これからは、皆さんが歩んだ跡を、しっかりと確かめながら、さらなる改善を加えて、後輩たちが歩いていくこととなります。皆さんが残してくれた成果を、いかにして定着、発展させていくかが、私どもの大きな仕事のひとつであると考えています。ひとつ、「小さな学校にしかできない教育がある」、ひとつ、「森の中の学校だからできることがある」を合い言葉にこれからも頑張ってもらいます。ぜひ、今後の甲高を楽しみにしていただくとともに、応援をしていただけたらと思っています。

名残は尽きませんが、卒業生の皆さんがたくましく成長され、実り多き人生を歩まれること、さらには皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして、式辞といたします。

令和二年 二月二十八日
兵庫県立西宮甲山高等学校
校長 山村 修平